

オニバス自生地

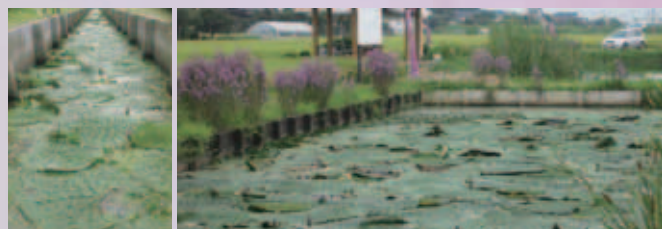
加須市指定天然記念物 埼玉レッドデータブック絶滅危惧ⅠA類

オニバスは池や水路で見られるスイレン科の一年草です。全体に鋭いトゲが生えているため「鬼」の名がつけられました。

オニバス自生地は北川辺地域のほぼ中央に位置し、昭和32年まで越中沼があったところです。当時の越中沼には、オニバスをはじめ、マコモやヒシなどの水生植物が繁茂し、魚や野鳥たちがたくさん生息していました。

その後、水田開発のため利根川の浚渫工事の余剰土砂によって越中沼は埋め立てられ、現在の水田地帯となり、オニバスは絶滅したと思われていました。

しかしながら幸運なことに、昭和57年の水路の改修工事や、平成元年からのパイプライン工事により、地中に眠っていたオニバスが目を覚ましてくれたのです。



オニバスは埼玉県レッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物について記載したデータブック）では、絶滅危惧ⅠA類に分類され、県内希少野生動植物種に指定されています。市では、永い眠りから目覚めたオニバスとその水面をオニバス自生地として、天然記念物に指定し大切に保護しております。

えっ ちゅう めま 越中沼昔話

越中沼は当時の子どもたちの遊び場だったそうです。水は清く澄んでおり、夏には越中沼で泳いで遊び、夜にはホタルが飛び交っていました。越中沼以外にもこの地域には大小多くの沼が存在しており、そこにはたくさんの動植物が生息し、ドジョウやウナギ、コイ、フナ、ナマズなどを捕まえて食べたそうです。

オニバスも当時は沼一面を覆うほど繁茂しており、オニバスの種も食べていたということです。

交通のご案内



鉄道をご利用の方

東武日光線新古河駅西口下車 徒歩30分（約2km）

お車をご利用の方

東北自動車道加須ICから約20分（約12km）
加須IC出口より国道125号を加須市内方面へ→南篠崎交差点右方面へ→
三俣交差点右折し県道加須北川辺線へ→埼玉大橋を渡り北川辺消防署前交差点右折し約1km



～豊かな自然を次世代に～

加須市北川辺総合支所地域振興課

〒349-1292 埼玉県加須市麦倉1481-1 TEL.0280(61)1205

<http://www.city.kazo.lg.jp> 加須市

検索

鬼蓮

県内唯一の自生地
永い眠りから目覚めた

オ

ニ

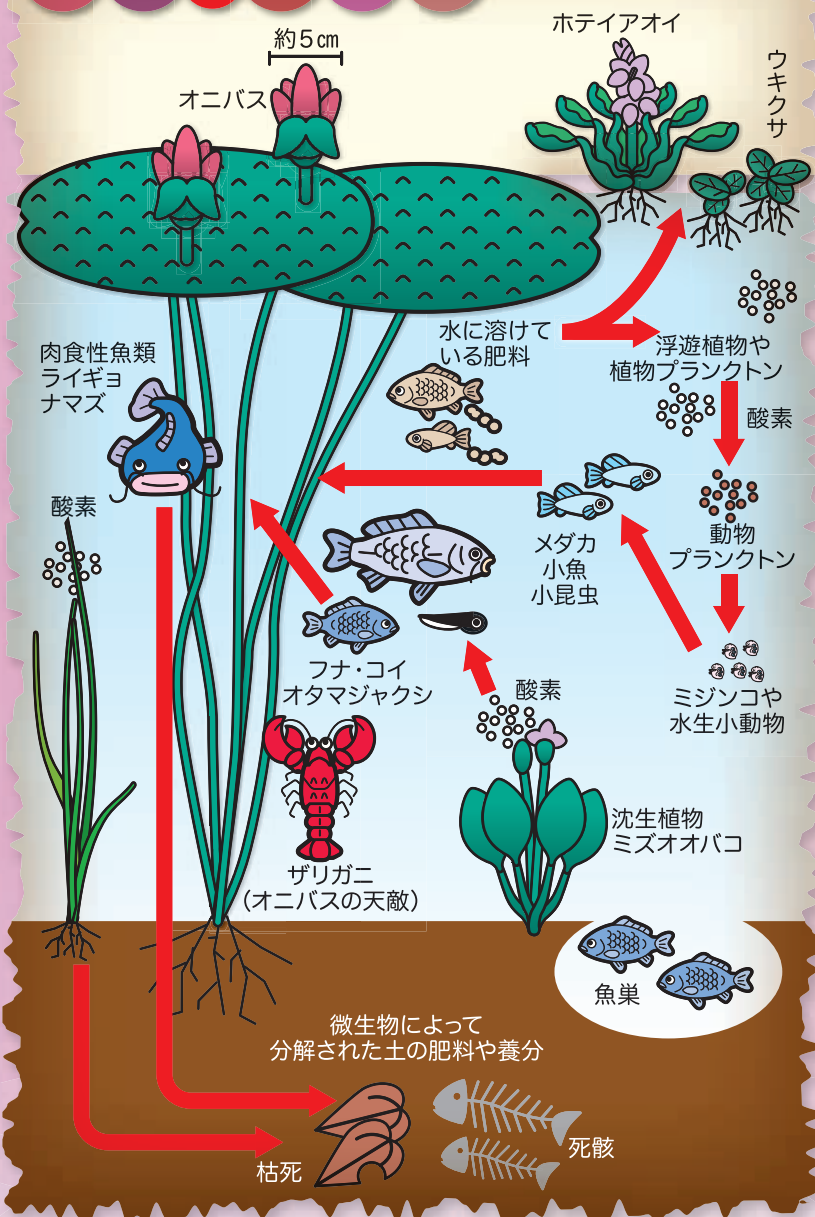
バ

ス

水と緑と文化の調和した元気都市かぞ

 埼玉県加須市

水辺の生態系



オニバス復元池の中は、いろいろな生物がかかわりあってひとつの社会(生態系)をつくっています。それぞれの生物が影響しあうことによって、バランスのとれた水中の生物相を維持しているのです。水中の養分を肥料として、浮生植物や植物プランクトンが育ち、それらを餌として動物プランクトンや小魚・水生昆虫などが育ちます。水中の中で頂点に立つ生物が、ナマズやライギョ(カムルチー)などの肉食性魚類です。

しかし、見方を変えれば、餌となる小魚や水生植物が豊富だからこそ肉食性魚類が生育できるのであり、この池の生物がいかに多様性に富んでいるかがわかります。

例えばオニバスの天敵であるザリガニが異常に増えた場合、捕食者である肉食性魚類が増え、ザリガニ数のバランスが保たれます。裏をかえせば、肉食性魚類が生息できない環境になると、ザリガニが増えオニバスが絶滅する恐れが生じることになります。

オニバスの一生

5月頃 発芽期

水底に眠っていた種子が発芽してきます。全ての種子が発芽するわけではなく、固体によっては、数年先に発芽するものもあります。

6月頃 幼葉期

矢じり形の幼葉が水面上にのびてきます。この葉が大きくなるのではなく、次々と基部から新しい葉がのびてきて、その度に葉は大きくなります。

7月頃 中葉期

この時期になると、葉の成長が最も盛んになり大きなものは直径が2メートル近くまで成長します。

8月頃 開花期

早朝に直径5cmほどの赤紫色の花を咲かせます。花は午後には閉じてしまいます。

9月上旬頃 成熟期

種子をつけるようになります。水中には開花しないで種子をつける閉鎖花も見られます。

9月中旬頃 種子放出期

1cmほどの種子が放出され、水流によって遠くへ運ばれます。数日で水中に沈み、静かに発芽する年を待ちます。

水辺の植物

あれこれ



ヒシ(ヒシ科)

水面にヒシ形の葉を浮かべ、葉の柄にはふくらんだ部分があり、そのため水に浮くことができます。夏に白い花をつけ、花が終わると水中に大きな実をつけます。実はでん粉を多く含み食用となります。

アサザ(ミツガシワ科)

沼や水路でみられ、泥の中の地下茎から長い茎が伸び、楕円形の葉を水面に浮かべます。

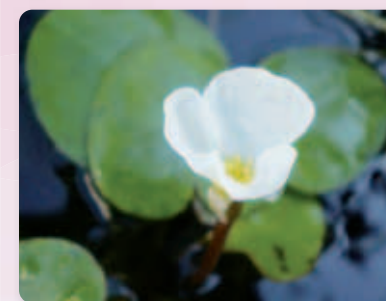
花は朝開いて夕方には閉じてしまいます。



トチカガミ(トチカガミ科)

夏の盛りに池や沼などで丸い葉の間から、白い花を咲かせます。

水に浮いているところが座布団のようなので別名「カエルノエンザ」と呼ばれています。



オモダカ(オモダカ科)

水田や湿地によく見られます。葉は矢じり形をしていて人の顔のようにも見えるので「面高」と呼ばれています。

